皆さんに愛され続けて55年、広報まつだは600号を迎えました

広報まつだ600号

昭和35年1月に「町だより」として、産声を上げた広報まつだは、今月で600号目の発行となりました。

【問い合わせ】政策推進課 経営戦略係 ☎(83)1222

広報紙の歴史

昭和35年1月11日に発行された第1号の広報紙は、活版印刷で1色刷(白黒)、4ページで構成されており、紙面の大きさは現在と同じ（タブロイド版）でした。

内容は当時の松田町長であった鍵和田一二（かぎわだいちじ）町長による年頭の挨拶や、成人式のお知らせ、国民年金制度の創設についてのお知らせなどが掲載されていました。

当初、広報紙は年3回の発行でしたが、42号(昭和44年4月)から、現在と同じ毎月の発行となりました。

記念すべき第1号の広報紙。この当時の人口は1万293人でした。

名称の変遷

「町だより」として発行されていた広報紙でしたが、その名称も3号(昭和35年11月)から「広報松田」、141号(昭和52年4月)から現在と同じ「広報まつだ」として皆さんのお手元へ届けられています。

紙面の変遷

現在の町広報紙の紙面の大きさは、昭和35年に発行された1号と同様のタブロイド版です。

広報松田100号(昭和49年2月)

しかし、町広報紙は1号から現在までずっとタブロイド版だったのではなく、26号（昭和41年9月）から140号(昭和52年3月)まではB5サイズで広報紙を発行していました。

また、1号の広報では、文字だけで構成されていましたが、11号(昭和38年11月)に掲載されている議員紹介で初めて写真が使われ、111号（昭和50年1月)で、町上空からの写真が、初めてカラー写真として掲載されました。

広報まつだができるまで

広報まつだは、毎月1日に行われる広報編集会議（町長以下8人で構成）にて、翌月号の広報に掲載する内容が決定します。広報担当者はその内容を基に、取材などを行い、記事を作成します。記事が出そろうと、いよいよ本格的な紙面作りです。紙面作りでは、何回かの校正作業を行うことで、最終的な原稿を完成させ、印刷会社に渡します。

印刷にかかる期間は約1週間程度で、毎月20日前後が翌月の広報紙の締め切り日となっています。

これからの広報紙

今月号で600号を迎えた広報まつだは、引き続き、皆さんに情報発信を行い、800号、1000号と歴史を綴っていきます。また、ホームページや、本紙3月号でお知らせした「i広報紙」のように、紙ではなく、パソコンやスマートフォンなどで見ることができるようになりました。これからも時代に即し、様々な形で、皆さんのお手元にお届けします。

毎号締め切りに追われる編集作業ですが、毎月、5000部もの広報紙を配付してくださる自治会の方々の存在や、取材時などに皆さんからいただけるご意見・ご感想が励みになります。地域の話題やご意見・ご感想などをぜひ、お寄せください。

広報まつだ200号(昭和57年3月)

広報まつだ300号(平成2年7月)

広報まつだ400号(平成10年10月)

広報まつだ500号(平成19年2月)

コラム　昭和35年の松田町

河内新道の開通式の様子（昭和35年5月）

広報紙の1号が発行されたのが昭和35年。その頃は、六夜祭（現：まつだ観光まつり）で3000人規模の大盆踊り大会が行われたことや、松田山のみかん狩りと連携して、小田急新松田駅にみかんの即売所を開いたり、小田急電鉄もみかん狩り特別列車を運行したりするなど、現在と同じように、町民・企業・行政が一丸となって町を盛り上げていました。

コラム　ご存じでしたか？ こんなコーナー

その月に起こった出来事を写真でお伝えするコーナー。現在もカメラリポートとして継続中。101号(昭和49年3月)初掲載。

フォトニュース

町内の赤ちゃんを紹介するコーナー。194号(昭和56年9月)初掲載。

我家の赤ちゃん

町保健師によるコラム。暑い夏の過ごし方など生活に関するアドバイスを掲載。214号(昭和58年5月)初掲載。

保健婦だより

広報まつだに掲載されていた4コマ漫画。229号(昭和59年8月)初掲載。

さわやか君

松田町長によるコラム。現在は風～かぜ～として復活。244号(昭和60年11月)初掲載。

町長日誌

町内のサークル団体を紹介するコーナー。452号(平成15年2月)初掲載。

集まれ！我らサークル仲間

町にゆかりのある人を紹介するコーナー。現在は我ら松田人として連載中。252号(昭和61年7月)初掲載。

ふるさとへのたより

広報担当者Tが現場に行き、取材をするコーナー。596号(平成27年2月)初掲載。

Tが行く！